



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

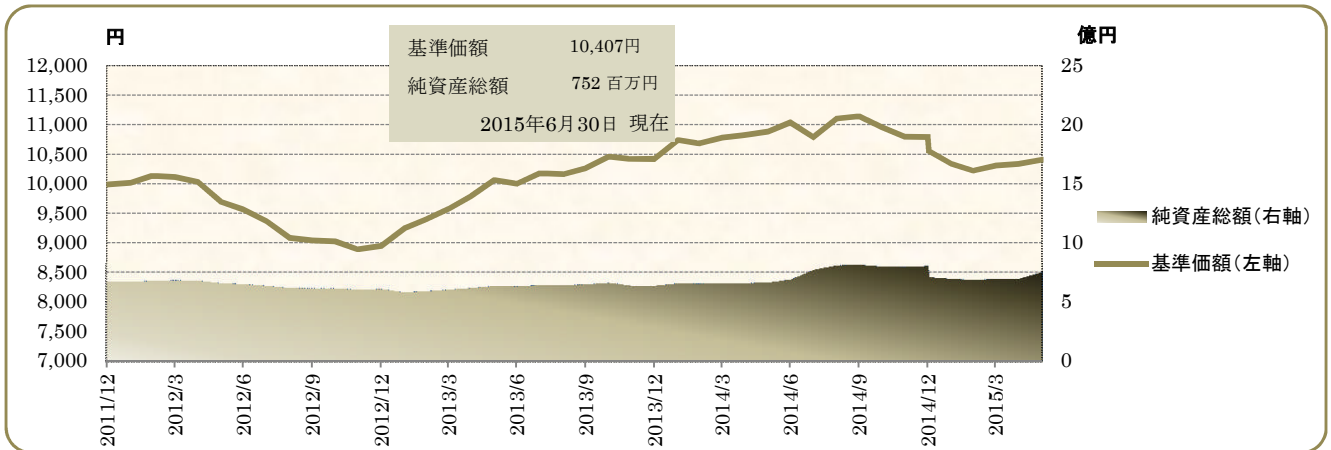
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2015年6月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

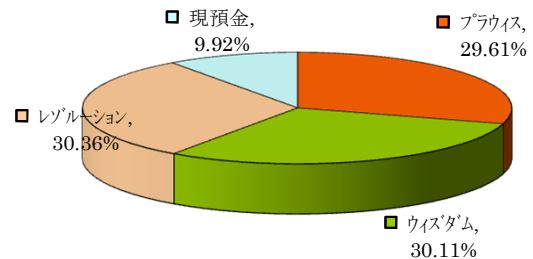
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%							-3.58%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673 百万円	
基準日:	2015年6月30日	
基準価額:	10,407円	対前月比 70円
純資産総額:	752 百万円	対前月比 +54.0 百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	1.82%
基準価額騰落率	6ヶ月	-3.58%
設定来	ファンド	4.07%
基準価額騰落率	TOPIX	125.33%
	日経平均	140.85%

投資対象ファンドへの資産配分 (2015年6月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%							-0.89%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%							-0.71%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%							-2.88%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

6月の株式相場は、日経平均で1.59%下落の20,235.73円、TOPIXで2.58%下落の1,630.40ptとなりました。ギリシャ債務問題に対する警戒感が広がり、6か月ぶりに下落となりました。上旬は、5月の大幅上昇からの利益確定売りに押されたことや海外株安を受けて下落傾向となりました。10日に黒田日銀総裁が「実質実効為替レートがここからさらに円安に振れていくことはない」と発言し、円安けん制と受け止められたことから円高となり、日経平均も一時20,000円割れ寸前まで下落しました。中旬は方向感のない展開となりました。FOMC後は円高方向となったことや、ギリシャ債務問題や欧州景気への懸念を背景にやや下落傾向となりました。下旬は、ギリシャ債務問題の報道に一喜一憂する展開となりました。協議が進捗するとの見方が広がり大幅に上昇、24日には日経平均は約18年半ぶり、TOPIXは約7年10か月ぶりの高値を付けました。しかし再び協議が難航、29日には今年2番目の下落率を記録するなど大きく下落し、いってこいの展開となりました。

大型株が軟調だった一方、中小型株は底堅い展開となりました。東証二部指数は1.80%上昇、JASDAQインデックスは1.75%上昇、マザーズ指数は3.03%上昇といずれもTOPIXを大幅にアウトパフォームしました。東証一部の売買代金は、10か月連続で2兆円を上回りました。需給面では、海外投資家が5か月ぶりに売り越し主体となりました。一方で個人投資家が5か月ぶり、信託銀行が4か月ぶりに買い越しに転じました。セクター別騰落率では、小売、水産・農林、精密機器、保険が上位となり、ゴム製品、鉄鋼、海運、鉱業が下位となりました。ファクター面では、バリュー指標がマイナスとなりました。一方でリビジョンファクターは月を通じて安定的に有効でした。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

＜ファンド運用状況＞

6月の運用成績はJPYクラスで-0.27%となりました。ポジションウェイトの高い食品セクターではプラスとなりましたが、一方で自動車や化学などのシクリカルセクターにおいて6月中旬以降順張り色が強く、PEやEBITDAなどのバリュー指標が効かなかったことがマイナスの要因となりました。セクター別の損益は食品、小売りセクターでプラスとなり、化学、輸送用機器、サービス、不動産セクターでマイナスとなりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

7月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。ギリシャの債務問題や、中国市場の動向により一時的に調整する可能性があります。投資家の押し買い意欲が強いことに加え、日銀や年金の買いも継続しており下値も限定的と考えます。今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のMacro動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

＜ファンド運用状況＞

6月の運用成績はJPY-Fクラスで+1.82%でした。業績モメンタムが目される物色動向となる中、好業績・割安株が相対的にアウトパフォームしたことに加えて、パフォーマンス好調だった小売セクターをネットでロングポジションにしていたことがプラス収益に寄与しました。個別銘柄レベルでは、ロングポジションでドンキホーテHD(7532)、中外製薬(4519)、ショートポジションでは住友ゴム(5110)、ウシオ電機(6925)がプラス収益に寄与しました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

7月の株式市場は横ばいを予想します。ギリシャの債務問題の動向によってはマーケットは一時的には下落する可能性があります。沈静化するに従い、世界の中でファンダメンタルズが良好な日本株が相対的に選好されると考えられ、月末にかけ底堅い相場展開を予想します。今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

＜ファンド運用状況＞

6月の株式市場は、市況の悪化や新興国の景気減速による業績へのデメリットが意識される中、訪日外国人の増加や所得環境改善の恩恵が期待される小売業や、ディフェンシブ業種である水産・農林業や食料品などが上昇しました。これまで有効性が見られたファクターが逆転し、再び、モメンタム、値高株や高ROE株、低信用リスク、割高株などグロース属性のファクターが堅調、バリュー劣位の傾向が強くなりました。また、小型株優位の展開となりましたが、これは円高やギリシャ不安などの海外要因に対するエクスポージャーが小さいことによりです。ポートフォリオは、個別銘柄の判断から電機、機械、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、化学、資本財関連セクターをアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。市場環境が良好なアウトソーシング(2427)や独自の商品を持っているデジタルーツ(2326)など、個別銘柄要因によるロング銘柄がプラスに寄与しました。一方、ネット関連など小型株らしい一部ロング銘柄がマイナス寄与しました。全体として、個別要因によるロングを中心に、下落傾向の続くショート銘柄を含め、パフォーマンスの獲得に至りました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

売買の対象が一部銘柄に集中している傾向や低成長高バリュエーション銘柄の存在などに大きな変化はありませんが、ファンダメンタルによる選別が一部見られるようになりました。小型株については、業種内、業種間のバリュエーション格差が目立っているものの、一部割安株の見直しが見られるようになりました。また、業績に裏付けされた銘柄の上昇が続くなど、一定の活気も感じられます。当面は、銘柄ローテーションを意識することによるバリュエーション修正が期待できる局面と考えます。やや会社の業績見通し(ガイダンス)が慎重な傾向にありますが、第一四半期決算の内容により、新しい銘柄選択の視点が生まれると思われれます。当面は、足元の業績動向に注意を払い、年度業績が好調な銘柄を中心として、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユーケー)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedfund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**